



2023年1月18日

報道関係者各位

慶應義塾大学

「KEIO SPORTS SDGs シンポジウム 2023」の開催(2/26)**～多分野連携で進めるスポーツ・身体活動～**

KEIO SPORTS SDGs は、世界保健機関（WHO）が2018年6月に「身体活動に関する世界行動計画 2018-2030（Global Action Plan on Physical Activity 2018-2030, GAPP）」を発表したことを契機に、東京オリンピック・パラリンピック2020を視野に入れ、2019年塾内外のステークホルダーが集まり発足しました。この度、2023年2月26日（日）に「KEIO SPORTS SDGs シンポジウム 2023～多分野連携で進めるスポーツ・身体活動～」を開催します。つきましては、イベント欄への掲載および、当日のご取材のほどよろしくお願いいたします。

1. 趣旨

KEIO SPORTS SDGs は、世界保健機関（WHO）が2018年6月に「身体活動に関する世界行動計画 2018-2030（Global Action Plan on Physical Activity 2018-2030, GAPP）」を発表したことを契機に、東京オリンピック・パラリンピック2020を視野に入れ、2019年塾内外のステークホルダーが集まり発足しました。以後、継続的に、塾内横断的、かつ、幅広く自治体や企業等とも連携をとって、スポーツ・身体活動推進に関するプロジェクトを実施しています。

2022年度、日本では健康日本21（第二次）最終評価が終わり、次期計画を策定する重要な時期を迎えています。WHOは2020年に「身体活動・座位行動ガイドライン」を発表、2022年には「Global Status Report on Physical Activity 2022」にてGAPPから4年経過した世界の現状を報告しました。本シンポジウムでは、日本と世界の身体活動の現状を共有するとともに、2030年の持続可能な行動目標（SDGs）、更にその先に向けて、塾内外のステークホルダーと、今後行うべきことを考える機会とします。また、多分野連携の気運を醸成し、より強硬なつながり・広がり的形成するため、参加者も交えて話題性のある身近なテーマを議論し、多様なステークホルダーとの協働を進めるきっかけとします。

2. 「KEIO SPORTS SDGs シンポジウム 2023」開催概要

日時：2023年2月26日（日）13:00～17:00（開場12:30）

実施方法：慶應義塾大学 日吉キャンパス 来往舎1F シンポジウムスペース

参加料：無料

参加申込：Peatixでの事前申込

[\(https://keiosportssdgs2023symposium.peatix.com/\)](https://keiosportssdgs2023symposium.peatix.com/)

定員：200名 ※後日、講演動画を配信予定（申込者への期間限定公開）

主催：慶應義塾大学

担当：スポーツ医学研究センター、大学院健康マネジメント研究科、
大学院システムデザイン・マネジメント研究科、体育研究所、SFC研究所 xSDG・ラボ、
医学部スポーツ医学総合センター、
グローバルリサーチインスティテュート 慶應スポーツ SDGs センター（SU）

後援：神奈川県、横浜市市民局、藤沢市、公益社団法人日本医師会、日本運動疫学会、

NPO 法人日本健康運動指導士会、公益財団法人横浜市スポーツ協会、
一般社団法人慶應ラグビー倶楽部 ※その他調整中

H P : <https://sportssdgs.keio.ac.jp/2023/01/16/symposium2023>

内容 :

●オンライン特別講演 (事前配信)

演題 : Global Status Report on Physical Activity 2022 and Future Prospects

演者 : Associate Professor in Public Health, University of East Anglia; President of the International Society for Physical Activity and Health (ISPAH) Karen Milton

演題 : SPORTS x SDGs の現状と課題

演者 : 政策・メディア研究科 教授 蟹江 憲史

※オンデマンド動画を事前配信

●世界と日本の身体活動の状況と今後の展望

演者 : スポーツ医学研究センター・大学院健康マネジメント研究科 准教授 小熊 祐子

●セッション① : 誰でもできるメンタルヘルスのすゝめ

演題 : トップアスリートのメンタルヘルスから「誰でもできる」を考える

演者 : 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 特任准教授 田中ウルヴェ 京

演題 : アスリートのメンタルヘルスケア～今、求められるものとは？

演者 : 国立精神・神経医療研究センター 研究員 小塩 靖崇

モデレーター :

スポーツ医学研究センター・大学院健康マネジメント研究科 教授 石田 浩之
大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授 神武 直彦

●セッション② : 健康経営と社会実装

演題 : 健康経営と SPORTS SDGs

演者 : 株式会社ルネサンス 健康経営企画部 部長 樋口 毅

演題 : 研究から社会実装へーエビデンス・プラクティスギャップへの挑戦ー

演者 : 公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所・上席研究員 甲斐 裕子

モデレーター :

日本体育大学 スポーツマネジメント学部 スポーツライフマネジメント学科 准教授
齋藤 義信
スポーツ医学研究センター・大学院健康マネジメント研究科 准教授 小熊 祐子

●総合討議

パネリスト : 演者全員

モデレーター : セッション①②モデレーター全員

●会場展示

- ・2022年度 KEIO SPORTS SDGs 関連イベント報告
- ・慶應義塾体育会×SDGs
- ・KEIO SPOTS SDGs 勉強会メンバー情報提供
- ・慶應キッズパフォーマンスアカデミー (KKPA)



シンポジウム問い合わせ先：慶應義塾大学スポーツ医学研究センター

電話 045-566-1090

FAX 045-566-1067

e-mail keiosportssdgs@gmail.com

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、科学記者会、各社科学部、社会部、運動部等に送信しております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室（担当：澤野）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

Email：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>



KEIO SPORTS SDGs

シンポジウム 2023



多分野連携で進める スポーツ・身体活動

2023 **2.26** sun.

13:00~17:00(開場12:30)

会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎1F シンポジウムスペース

参加費 無料 **定員 200名**

※後日、講演動画を配信予定
(申込者への期間限定公開)

参加申込方法

Peatixでの事前申込
(<https://keiosportssdgs2023symposium.peatix.com/>)



より **スポーツ** **イベント** に
どこでも
だれでも
いつでも

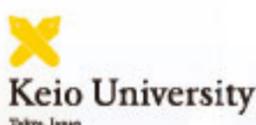


●問い合わせ先 慶應義塾大学 スポーツ医学研究センター
電話:045-566-1090 FAX:045-566-1067 e-mail:keiosportssdgs@gmail.com

主催:慶應義塾大学

担当:スポーツ医学研究センター 大学院健康マネジメント研究科
大学院システムデザイン・マネジメント研究科 体育研究所 SFC研究所 xSDG・ラボ 医学部スポーツ医学総合センター
グローバルリサーチインスティテュート 慶應スポーツSDGsセンター(SU)

後援(予定):厚生労働省 スポーツ庁 公益社団法人日本医師会 神奈川県 横浜市市民局 藤沢市 日本運動疫学会
公益財団法人健康・体力づくり事業財団 NPO法人日本健康運動指導士会 公益財団法人横浜市スポーツ協会
一般社団法人慶應ラグビー倶楽部



企画概要

2022年度、日本では健康日本21(第二次)最終評価が終わり、次期計画を策定する重要な時期を迎えている。WHOは2020年に「身体活動・座位行動ガイドライン」を発表、2022年には「Global Status Report on Physical Activity 2022」にて身体活動に関する世界行動計画2018-2030(GAPPA)から4年経過した世界の現状を報告した。本シンポジウムでは、日本と世界の身体活動の現状を共有するとともに、2030年の持続可能な行動目標(SDGs)、更にその先に向けて、慶應義塾内外のステークホルダーと、今後行うべきことを考える機会とする。また、多分野連携の気運を醸成し、より強固なつながり・広がり形成するため、参加者も交えて話題性のある身近なテーマを議論し、多様なステークホルダーとの協働を進めるきっかけとする。

講演

オンライン特別講演

事前
配信

Global Status Report on Physical Activity 2022 and Future Prospects

Associate Professor in Public Health,
University of East Anglia; President of the
International Society for Physical Activity
and Health (ISPAH) Karen Milton



SPORTS x SDGsの 現状と課題

政策・メディア研究科 教授
蟹江 憲史



世界と日本の身体活動の 状況と今後の展望

スポーツ医学研究センター
健康マネジメント研究科
准教授 小熊 祐子



セッション②

健康経営と社会実装

健康経営とSPORTS SDGs

株式会社ルネサンス
健康経営企画部 部長
樋口 毅



研究から社会実装へ —エビデンス・プラクティス ギャップへの挑戦—

公益財団法人 明治安田厚生事業団
体力医学研究所・上席研究員
甲斐 裕子



〈モデレーター〉

日本体育大学 スポーツマネジメント
学部 スポーツライフマネジメント学科
准教授 齋藤 義信
スポーツ医学研究センター・健康マネジメント研究科
准教授 小熊 祐子

セッション①

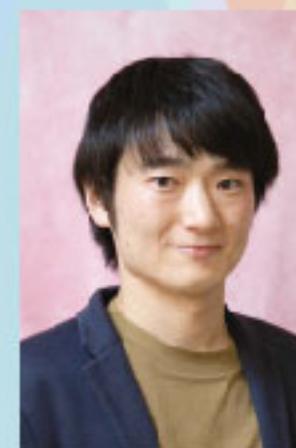
誰でもできる メンタルヘルスのすゝめ

トップアスリートのメンタルヘルス
から「誰でもできる」を考える

システムデザイン・
マネジメント研究科
特任准教授
田中ウルヴェ 京

アスリートのメンタルヘルスケア
~今、求められるものとは?

国立精神・神経医療研究センター
研究員 小塩 靖崇



〈モデレーター〉

スポーツ医学研究センター・健康マネジメント研究科 教授 石田 浩之
システムデザイン・マネジメント研究科 教授 神武 直彦

総合討議